

父の 37 回忌の墓参の帰りに、花屋さんから「日向薬師と梅園」を勧められ、また、陽気に誘われて、伊勢原市日向(ひなた)まで足を延ばしました。厚木の上古沢から山道を通って、鄙びた里山の風景のなかに目的地の「日向薬師」がありました。裏山の斜面の梅は三分咲程度でしたので、すぐに、「日向薬師」と呼ばれている高野山真言宗「宝城坊」というお寺に向かいました。本堂に降りる途中に「宝物殿」がありました。そこに入った途端、仏像に囲まれてしまいました。



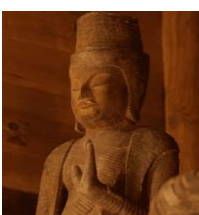
左手の阿弥陀如来坐像(273cm)には平安時代末期の特徴があり、右手の薬師如来座像(283cm)には鎌倉時代の力強さが見られるとのこと。優美な日光、月光菩薩を伴っています。正面には本尊である薬師如来像を収めた巨大な厨子があり、開扉しておりませんでした。厨子の左右に 2m を超す四天王(仏法の守護神)が 4 体、薬師如来



来の眷属(従者)と言われる等身大の十二神将が、狭い空間に林立していました。とても力強い姿勢を示しています。解説員のお話しでは、すべて寄木造りによる仏像で、作者は不明なものの鎌倉時代後半の仏像であるとのこと。これらは国の指定重要文化財になっています。運慶は晩年には鎌倉幕府関係の仕事を手掛けたといわれているので、慶派の作品かもしれません。それにしても壮観で、数の多さに驚き、圧倒されてしまいました。無造作に置かれているような気がしました。



宝城坊は奈良時代の仏僧・行基(668-744)が開いたという伝説があり、開創以来、歴代天皇の寄進、下賜があったそうです。本堂の須弥壇にも薬師如来がいましたが、よく見えません。なんと言っても厨子の中の本尊「薬師三尊」を見たいものです。年に 5 回開扉されるだけです。ここの最も古い仏像で、カツラの一本造り、鉞彫りによるものとのこと。記録によれば、頼朝は一度、政子は数回この像を拝したそうです。私は仏教にうとく、「薬師如来とは何ぞや」から始めなければなりません。この世の東方を浄土し、衆生のために徐病延寿、衣食満足の請願を立て、成就し、菩薩から如来に昇格した仏であり、左右に日光、月光菩薩を配し薬師三尊と崇められているそうです。



日光菩薩  
123.9cm



薬師如来  
116.6cm



月光菩薩  
123.3cm